令和元年度　奈良県立奈良高等学校　学校評価総括表

学　校　運　営　計　画			総合評価
教　育　目　標	本校の教育の目標は、日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本理念に基づき、人間尊重を基盤として、一人一人の人間を大切にし、その人がもっている能力、適性を最大限に伸ばし、未来の社会に期待される人間を育成することにある。そのために、豊かな人間性をもち、絶えず知性を磨き、新しい文化の創造に努め、正しい価値観と倫理観をもって自主的な判断と行動のできる人間の育成を図る。		B
教　育　方　針	天平文化を象徴する校章『宝相華』を体し、新しい文化の創造に励み、民主的な社会の形成に努めるたくましい人間の育成を期し、本校教育は次の方針に基づいて推進する。 １　志操と思想を研き、創造的な知性と技能を育て、豊かな個性の伸張を図る。 ２　真実の自由と責任を自覚するとともに、敬愛と信頼に満ちた人間関係を醸成する。 ３　積極的に文化・体育活動に参加し、明るく豊かで活力のある生活態度を養う。 ４　人間尊重の精神を基盤として、人間としての在り方、生き方を自覚し、自らの行動を律する主体性を育てる。		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
生徒の学習意欲の向上、学習習慣の定着に成果をあげ、進路実績も一定の成果をあげた。 しかし、学習に主体的に取り組む姿勢には、まだ課題が残る。将来のキャリアを視野に入れた指導が、継続的に必要である。 また、授業改善のために、より質の高い授業、生徒が主体的に学べる授業を実践するための研究が大切である。 部活動や各種コンクールに真摯に取り組み、成果をあげた。今後も、学習との両立を図るため、バランスのとれた生活時間の配分が必要である。 校内での挨拶は定着しつつある。その一方で、遅刻の総数が、昨年よりも増加した。不注意の遅刻の減少及び通学マナーの向上を図る必要がある。 部活動中の熱中症等への予防に向けた取組を継続していく必要がある。	○　生徒が主体的に物事を考え、判断し、行動しようとする姿勢を養う。 ○　生徒の確かな学力と、社会の一員としての豊かな知性・人間性を育む。 ○　より質の高い授業を実践するため、授業改善に取り組む。 ○　ＳＳＨの第４期指定において設定した新たな研究開発課題に向けた取組を推進する。 ○　常に生徒の安全確保に努めるとともに、生命を大切にし、健康を保持増進する能力や態度を養う。 ○　学習と部活動等との両立を推進する。	◇　本校独自の単位制を充実させるとともに、個々の授業改善に取り組む。 ◇　計画的、組織的な進路指導を展開するとともに、次年度の大学入試改革に備えて、さらに検討を進める。 ◇　主体的な学習を促すためのガイダンス機能を更に充実させる。 ◇　第４期２年目のＳＳＨ事業を企画・運営し、関係機関と連携しながら事業を推進するとともに、探究活動や授業改善に取り組む。 ◇　社会のルールやマナー等の規範意識の醸成に努める。 ◇　部活動や各種コンクールへの参加を推進する。 ◇　読書の啓発に努めるとともに、文化的な行事の充実を図る。 ◇　学校安全教育、防災教育に積極的に取り組む。 ◇　ボランティア活動を推進し、地域で活動する機会を設ける。 ◇　健康面、精神面での相談体制を充実させる。 ◇　本校の教育活動についての情報を迅速かつ適切に発信する。 ◇　熱中症予防に向けた具体的計画に基づき、その取組を展開する。 ◇　グローバルリーダーの育成をめざし、国際交流・留学を推進する。 ◇　ＩＣＴ機器の整備及びＩＣＴ機器を活用した授業づくりを推進する。	

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
教務部	教務課	新しい入試制度や 2022 年度より実施される新学習指導要領に対応できる教育課程の編成を目指す。特に単位制の特色を生かし、主体的に学習に取り組める態度及び修得した知識や技能を幅広く活用する能力を育む教育課程の編成を目指す。	各教科やキャリア・マネジメント部、研究開発部と連携をとりながら、教育課程委員会やＳＳＨ推進委員会、教科会議等を通じて各教科や分掌の意見を出し合い、本校の教育目標や教育方針、ＳＳＨ指定研究の基本方針・内容についての共通理解を図る。その上で、本校で設置予定の各教科・科目や学校設定科目の内容を吟味し、運用・実践方法を検討しながら教育課程を編成していく。	B	B	新教育課程の編成に向けて、教育課程委員会等で各教科・科目の内容や標準単位数等を広報して検討を促した。しかしまだ具体的な編成作業には至っていない。また、ES 科目や理数探究等の探究活動の取組については推進されてきているが、授業交流等についてはさらなる活性化が必要である。	新教育課程の編成に向けて、教育目標や週単位数を確認した上で、各教科から必要な科目と単位数、実施学年を提出してもらい、具体的な検討をしていく。その際には教育目標に則したものであることを全教科で共通理解しながら編成に取り組んでいく。また、主体的な学びの研修としての授業交流や公開授業等についても、その方法について工夫し、できるだけ多くの教員の参加を図っていく。	新しい新学習指導要領を見据えた教育課程の編成を更に進めていく必要がある。 新教育課程を視野に入れながら観点別評価の研究を進めるとともに、ＩＣＴ機器を積極的に取り入れ、生徒の主体的な学びに向けた更なる実践に期待する。
		生徒の主体的な学びや探究活動がより一層進展していくための指導方法の工夫や授業改善を目指すとともに、観点別評価の実践を段階的に行う。	教科の枠を越えた授業交流を実施し、互いの授業を観察し研究する。また、各教科で研究課題を設定し、それに基づいた公開授業を行い、教員それぞれの授業力の向上と授業改善を図る。さらに新テストの導入準備も絡めて、生徒の探究活動・課題解決学習の推進を様々な観点からアプローチしていく。加えて、評価についての具体的な方法を実践する。	B				

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
キャリア・マネジメント部	キャリア・リサーチ課	大学入試制度改革に確実に対応するため、実効性のある具体策を各教科・学年と連絡を密にしながら検討・実施する。	英語外部検定導入に対する対応を英語科と連携して具体化させ、実行する。記述式問題が導入される教科の対策についても当該教科との検討をすすめる。 正確な情報の共通理解のため、大学入学共通テスト導入に関わる最新状況について職員研修を実施する。	B	B	B	大学入試制度改革に関して、学年に応じた情報提供に努め、概ね出来たと考えており、研修も実施することができた。英語科と連携しながら対策を進めてきた外部検定実施に対応する取り組みや、記述式問題に対応する指導が、結果として役立たなかったことは残念である。 進学資料を用いたHRや大学探訪の実施により、早期から進路に対する意識を持たせることにはある程度成功していると思われるが、進路に関する学年単位での集会はやはり実施したい。	大学入学共通テストの英語外部検定や記述式問題の導入は先送りされたが、思考力・判断力を問う問題が多く出題されていくので、これらの対策を 1 年時から取り組む必要がある。 各大学探訪の時期、内容について再検討し、できるだけ多くの生徒が参加できるものにしていきたい。 今後も大学入試制度については様々な変更がなされる予定であるので、一層迅速な情報提供と対応に努めるとともに、先生方の各種研修への参加を促していきたい。	新しい大学入試制度に向けてさらに多くの情報を収集し、指導となるポイントについて、研修及び研究を行っていくことを期待する。 高大連携を意識し、生徒に対し、明確な目標を示しながら計画を進めてもらいたい。 外部における研修や講師招聘による研修についても、一人一人の教員が一層、積極的な姿勢で参加することを望む。
		本校生徒の進路意識や悩み、学習面の課題を探り、学年・教科の協力も得ながら対応策の検討に努める。	進路希望調査、模擬試験結果を分析し、キャリア・サポート課と連携し、適時研修を行う。 結果分析から得られた課題や傾向を、学年・教科と共有し、連携して克服策を探る。	B					
	キャリア・サポート課	生徒が進路に対する意識を早期から高め、進路実現に向け主体的・継続的な努力を行うサポート体制と方策を一層整備する。	講演、キャリアホームルーム、大学探訪等を通じて、生徒の進路に対する意識を早期から高め、進路実現への意欲を高める。 行事・取組の事後検証を綿密に行い、より効果的な取り組みとするため、課題の修正と改善に努める。	B	B				
		個々の教員が進路指導の力量を高め、生徒への充実した進路指導を実践するための方策を探る。	進路指導・関連行事の流れについて、早期の資料・情報提供に努め、年間を見通した実践計画を立てやすくする。外部研修について情報提供し、積極的な参加を促す。	B					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
学校生活部	生徒指導課	生徒個々の規範意識を高め、基本的生活習慣の確立を図る。	不注意による遅刻を防止するため、指導の充実に努め、年間の総遅刻数を減少させる。また、校内におけるルールを遵守させるとともに、明るく、積極的な雰囲気に満ちた学校づくりに努める。	C	B	B	遅刻に関して年間の総数はまだ集計されていないが、昨年に比べて1クラス減にもかかわらず、1学期は大幅に増加した（627→830 ）。規範意識の基盤として、時間を守ることの大切さの意識を身に付けさせなければならない。 体育館が使用禁止の中100年会館やならでんアリーナなどの施設を利用して、各行事を工夫して運営できた。課題は、地域と連携したボランティア活動が実践できなかったことである。 「デートDV」出前授業の実施をようやく実現できた。 昨年より教員の外部研修への参加が少なく、不十分な状態であった。	遅刻が重なる生徒には、早い段階で担任を中心に学年、生指と連携し、粘り強く改善されるまで指導することが肝要だと思う。ほとんどの生徒がしっかり時間を守れるなか、遅刻ぐらいと思っている生徒の意識を変えるつもりで対処しなければならないと思う。 今までと同じやり方、同じ内容を続けるだけでなく、現在の状況に合わせた行事を企画運営していく。生徒会担当者会議などに積極的に参加して他校と情報交換をして、地域と連携したボランティア活動を模索する。 教員の人権意識の向上ということに関して真摯に取り組み、様々な情報を機会あるごとに提供しなければならない。校内の研修の充実にも一層努めたい。	1学期に比べ、2学期の遅刻数は、若干減少したが、遅刻防止に向けて、更なる対策を考え、自覚を促す指導を継続してほしい。 登下校中の事故を防止するため交通安全教室等を開催し、交通マナーの啓発を今後も継続していく必要がある。 2年後に移転する地域との連携が重視される中、ボランティア活動についても、周辺地域から更なる評価を受けるよう、積極的な取組を期待する。 人権学習については、各ホームルームにおいて、生徒の実態に合うよう担任を中心に工夫された中身が多い。さらによりよい人権学習に繋げるために、研修会への積極的な参加が一層進むことを期待する。
		生徒の問題行動を未然に防ぐとともに、発生時の対応・指導を適切に行う。	1年生を対象として、「交通安全教室」「スマホ・携帯安全教室」及び「薬物乱用防止教室」等を開催し、現在及び将来にわたって安全な社会生活を送るための知識を学ばせる。	B					
	生徒会指導課	自主創造の精神に基づき、生徒一人一人が学校活動の主役となり、生き生きとした生活が送れるようにする。	生徒会（総務委員会）と各種委員会との連携を密にし、各行事における役割を明確にするとともに、活動の活性化を図る。 学校生活における規範意識を高めるための活動を模索し、実行に移す。 活発な部活動を展開し、健康で心豊かな生徒の育成を図る。	B	B				
		地域や他校と連携したボランティア活動の充実を図る。	昨年度に続き、近隣の学校や周辺地域と連携したボランティア活動を計画し、発展させる。	C					
	人権教育課	生徒の実態の把握に努めるとともに、グループワークなどを通じて生徒の主体的な活動を促す。	生徒が作成した人権啓発標語や人権作文を人権HRにおいて効果的に活用し、アクティブラーニングの手法を取り入れる。また、新しいテーマ・教材の提供にも努める。	A	B				
		教職員・保護者に校外での研修会、学習会等への積極的な参加を呼びかける。	本年3月に「部落差別の解消の推進に関する条例」が施行されたことを周知した上で、人権教育に関する研修会や学習会（校内・校外）に多くの教職員・保護者が参加できるように、情報の収集・伝達に努める。	C					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
文化 広報部	総務 情報課	育友会と同窓会の活動を支え、保護者等に対して本校の取り組みへの理解を深めるよう努める。	学校内外の各部署との連携を密にし、育友会・同窓会の諸活動を活発に行う。また、学校新聞やホームページ等、様々な手段を通して広く本校教育の取り組みを保護者や地域の方々、中学生等に伝えていく。	B	B	B	多くの保護者や同窓会員に対して、本校の現状を理解していただけた。 外部との連携がうまくいかず、新端末等の問題への対応がうまくいかないことがあった。 文図関係については概ね当初の計画通り実施できた。また図書館フェア等により、生徒の図書への関心をある程度高めることができた。	今後も育友会、同窓会において学校運営に理解と協力が得られるよう、様々な機会で訴えていく。 来年度の生徒用端末の更新において、外部との連携を密に進めていく。 校内にポスターを貼るだけでなく、教室掲示や、図書委員による放送機器を通じての呼びかけ等も視野に入れる。	今後の移転も視野に入れながら学校運営に関し、育友会・同窓会と学校が連携し、協力することで様々な視点を取り入れることが必要となってくると考えられる。 ビブリオバトルやビブリオサロン、読書会などの取組は、生徒の自主的な活動と結び付いて、運営されている。広報活動を広げることで、参加者の数が更に増えていくことを期待する。
		校務系端末、教育系端末を教育活動に生かせるよう整備し、安定したネットワーク運営を行う。また、ホームページ等を活用し、広報活動を充実させる。	県と連携をとりながら教員用新端末の安定した運営を目指すとともに、従来の生徒用端末についても問題に迅速に対応できるよう務める。また、新ホームページの運営においても作成、更新作業が迅速かつ活発に行われるよう、各担当部署との連携を密にする。	B					
	文化 図書課	知的好奇心を喚起するような文化講座を計画し実行する。	外部講師を招くことも視野に入れ、他分野横断、学際的な講座を実施する。	A	B				
		生徒たちが自分の好きな本について語る、ビブリオバトルを実施する。	文化講座、探求系授業、「アスペン古典セミナー」、「ゲーテの会」などとも関連させながら、自由な発表の場を作り上げる。	B					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
保健 安全部	保健 体育課	生徒が健康診断や身体測定、体力テスト等の結果を踏まえて自主的に心身の健康を保持増進できるような能力や態度を育成する。 引き続き熱中症事故0を達成する。	健康診断の事後指導を充実させ、疾病や発育・発達に関する課題の早期発見や対応を行う。特に、経過観察が必要な生徒の体重測定や個別指導を定期的に行うとともに教育相談委員会とも連携し、個人カードを活用しながら心身に配慮を要する生徒をより注意深く見守る。また、「保健だより」や掲示物等の内容を工夫する。 常に最新の情報を取り入れながら熱中症予防計画を策定し、学校全体で確実に取組を進めていく。	B	B	B	健康診断は2学舎に別れた状態でも何とか例年通り実施できた。その結果を踏まえた事後指導や経過観察が必要な生徒への支援・指導も概ね行えた。 体育館未耐震問題や仮設校舎建設で運動環境が制限されたため生徒が自由に選択して十分運動できる条件を整えられなかった。 生徒の教育相談に関する状況把握は、担任、学年主任の先生方の協力が大きく、有り難かった。 SCの先生がいつも勤務時間超過になる。カウンセリングの時間もその後のコンサルテーションも長くなってしまうのを改善したい。 移転に伴い生じる環境面での問題は多岐にわたり解決できることとできないことがあった。 1学期と2・3学期用に避難経路を考え、5 月 8 日・7 月 16 日・10 月 1 日に 3 回訓練を実施することができた。	情報交換を密にし、より細かく生徒の心身に関する情報を把握しながら課題の超早期発見や個別指導・支援に努める。 一刻も早く体育館を確保し、体育の授業はもちろん学校行事、部活動等の学習環境や生徒がのびのび運動できる場を保障する。 SCの活用は軌道に乗ってきている。教育相談アドバイザーの活用も活発にして、専門家の助言を積極的に仰ぐ。 平城高校校地への移転を控え今年度の経験を生かすと共に新たに生じる問題点を検討する必要がある。 放送機器の点検をして緊急時に万全の体制で備えるようにする。	1学期の間は、それぞれの学舎に分かれて健康診断を行ったが、関係の先生方の細かな計画の下できちんと実施できたことは、大きな成果であったと考える。 SCによる教育相談の時間は増えたが、担任を中心としてＳＣと連携し、また職員全体に情報を共有しながら、生徒をしっかりとサポートしていくことが今後も重要だと考える。 SCの先生方に対するニーズも年々増えていく傾向にある中で、教育相談課の先生方と担任や学年主任との連携を密に保っていただいていることは大いに感謝したい。 校舎の耐震関係で、仮設校舎等への引っ越し作業が大きな負担となったが、環境整備課のリーダーシップにより全体の運搬作業に対する動きがスムーズに行えた。仮設校舎の教育環境は整備されつつあるが、依然として課題も残っており、さらなる整備に努めていく必要がある。
		全体及び個々の生徒について体力的な課題を明確にし、その克服に向けて自主的に体力トレーニングを行えるよう指導する。	体育の授業を中心に保健や体育理論の内容とも関連付けながら、生徒が自主的・積極的に体力向上を図れるよう指導を充実させる。特に、運動が苦手で嫌いな生徒に対する指導を工夫する。	C					
	教育 相談課	生徒がスムーズに学校生活を送ることができるように、学年・学校全体で協力して生徒を見守り、寄り添えるようにする。	生徒への対応、支援を迅速かつ的確に行えるように担当教員・学年と教育相談課が連携する。特に、不登校傾向を早期に把握できるように、日頃から欠席や遅刻の状況を確認する。	B	B				
		教育相談の専門機関を積極的に活用して、生徒支援と教職員のカウンセリングマインドの向上に活かす。	スクールカウンセラーや教育相談アドバイザーへの相談・連携を密にして適切な助言を仰ぐ。	B					
	環境 整備課	移転に伴い生じる環境面での問題点を解消できるように努力する。	校舎内外の状況把握に努め、期間を限定せずに生徒や教職員の要望に応える。	C	B				
		HR教室の場所が年度内に変わるクラスもある中、1 年間を通して防災意識の向上に努める。	仮設校舎の工事日程や状況を踏まえて避難経路図を練り直し、シェイクアウト訓練と火災訓練を実施する。	B					

<table>
<tr><th colspan="2">評価項目</th><th>具体的目標</th><th>具体的方策・評価指標</th><th colspan="3">自己評価結果</th><th>成果と課題</th><th>改善方策等</th><th>学校関係者評価及び改善方策</th></tr>
<tr><td rowspan="5">研究
開発部</td><td rowspan="3">ＳＳＨ
事業
推進課</td><td rowspan="2">第4期SSH事業の研究開発課題として、3 年間を通して主体的に探究し、創造する力を系統的に育む教育課程を開発・実践する。また、将来のグローバルリーダーに相応しい国際性を育成する。</td><td>主体的な探究活動において、多角的・複合的な視点で事象をとらえ、徹底的に課題と向き合い考え抜くことにより、創造する力を育成する。SSP基礎科目の見直しと、教科・科目の枠にとらわれない学校設定科目（SSP探究、総合探究、理数探究、Explore subjects）を実施し、ルーブリック評価法の確立を進める。3学年に渡る SSH 関連教科の接続について研究する。</td><td>B</td><td rowspan="3">B</td><td rowspan="5">B</td><td rowspan="5">理数探究での課題研究の実践と評価方法の改善に成果をあげた。国際化の取組は確立されており、企業連携を強めて事業を充実させた。事業の広域化と探究活動の高度化が次の課題である。
ＩＣＴ活用促進については、各教科において、一定の成果を得ることができた。
本年度、イギリス短期語学研修2年目であったが、事前事後研修を含め円滑に実施できた。
国際交流推進については、本年度要請はなかった。</td><td rowspan="5">事業の3年間の接続を教員が検討する時間をとり、課題と改善策を共有する必要がある。連携校を増やし、大学・企業等との連携をさらに強めて、生徒活動を支援・指導する。
海外語学研修については、グローバル人材育成の観点から、更にプログラムを精査する。また、ICT活用促進については、校内研修実施も含め、更なる活用喚起を図る。</td><td rowspan="5">今後、次期重点枠に向けて、さらに様々な活動をより充実させてほしい。
引き続き、多くの生徒がグローバルリーダーを目指せるように海外の国々との交流の場を広げていってほしい。
また、ＳＳＰ事業における学校設定科目について、さらに研究開発を進めてほしい。
生徒の主体性を促す研究活動をさらに活性化するよう、連携校との交流も深めていってもらいたい。</td></tr>
<tr><td>国際社会の中で活躍するために必要な資質・能力を育成するために、科学英語講座やシンガポール海外研修等の充実を図り、教員評価と生徒アンケート等を基に効果を検証する。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>重点枠事業として、県全体の理数系探究活動の活性化を図るとともに、地域や学校に貢献し、活躍できる人材を育成する。</td><td>連携校のネットワークをさらに充実させ、各事業をより効果的なものにしていく。また、成果の普及と地域への貢献を目指した地域人材育成のため、連携校生徒を含めた「生徒実行委員会」の活動と、「理数科教員指導方法研究会」を充実させる。</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">研究
企画課</td><td>情報活用能力を高め、情報社会の進展に対応した教育を推進する。</td><td>ＩＣＴを活用した授業の実施状況を把握し、その授業の促進を喚起する。</td><td>B</td><td rowspan="2">A</td></tr>
<tr><td>広い視野に立ち、異なる文化、価値観を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と積極性及び協調性を有するグローバル人材を育成する。</td><td>イギリスでの短期語学研修プログラムを企画し、長期休業中に実施する。
要請があれば、海外交流団体を受け入れ、本校生徒との交流を図る。</td><td>A</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価項目</th><th>具体的目標</th><th>具体的方策・評価指標</th><th colspan="3">自己評価結果</th><th>成果と課題</th><th>改善方策等</th><th>学校関係者評価及び改善方策</th></tr>
<tr><td rowspan="6">第１学年</td><td rowspan="3">基本的な生活習慣を確立させ、高校生としての自覚をもたせる。</td><td>生徒が自らの役割を自覚し、集団の一人として責任を持って、高校生として自律した行動をとれるようにさせる。</td><td>A</td><td rowspan="3">B</td><td rowspan="6">B</td><td rowspan="6">基本的な生活習慣は確立できつつあるが、2学期以降、遅刻をする生徒が次第に増加してきた。
学習面については、自分の学習スタイルを確立するところまで到達できていない生徒が少なからずいるので、主体的・計画的な学習について面談で具体的に指導する必要がある。
保護者と担任はよく連携がとれて、SCにも積極的につなぐことができた。学年会議でも情報共有できた。
学年集会ができない環境は早く解消するべき。</td><td rowspan="6">2学期から法蓮学舎に戻ってきたことで、1年生は生活環境、学習環境とも大きく変わり、戸惑った者も多かった。遅刻の増加が次年度でのゆるみにつながらないようにしたい。
生活面、学習面ともに、個々に応じて具体的に指導するだけでなく指導後の確認が必要になってきている。
学年会議では部活指導で常に出席できない担任がいる。副担任との連携により特に問題は起きていないが、担任が会議に出席できない状況は解消しなければならない。そのための条件整備が必要である。</td><td rowspan="6">基本的な生活習慣の根幹である遅刻や欠席をなくすことは、学習の成果とも大きく関連している。今後も粘り強い指導を期待したい。メンタル面のケアについてはＳＣなどとも連携を取りながら個別に面談をするなど、職員同士の密な連携をお願いしたい。</td></tr>
<tr><td>理由のない遅刻や欠席をなくし、基本的生活習慣を確立させる。遅刻・欠席の理由によっては、スクールカウンセラーと連携する。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>自ら進んで行う挨拶を習慣づけ、明るい中にもけじめのある落ち着いた雰囲気の学習環境を作らせる。</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">将来の目標を設定し、その実現に向けて、授業を大切にして学力の一層の向上を目指す。</td><td>予習・復習の習慣を身につけ授業を大切にすることで、自分の学習スタイルを確立させる。定期考査や模擬試験等を積極的に活用し、学習方法を点検させる。</td><td>B</td><td rowspan="2">B</td></tr>
<tr><td>キャリア・マネジメント部と連携し、生徒が将来の目標を見据えながら主体的に学習に取り組めるよう、キャリア学習HRを計画・展開する。</td><td>A</td></tr>
<tr><td>生徒の学校生活をより充実したものにするべく、各家庭との協力関係を構築する。</td><td>懇談等の機会を活用し、日常の生徒の様子についての情報を保護者と共有する。また、生徒の様子の変化に気づいたときは、早い段階で保護者と連絡を取り合い、各分掌、スクールカウンセラーとも連携しながら適切な指導を行う。</td><td colspan="2">A</td></tr>
<tr><td>学年団として意思の疎通を図り、まとまりのある教員集団を形成する。</td><td>学年会議だけでなく、日頃からお互いに報告・相談・連絡を密にする。また、教科、分掌、学校全体の組織とも連携し、情報を共有する。</td><td colspan="2">B</td></tr>
</table>

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第２学年	基本的な生活習慣を身につけ、けじめのある生活態度を身につけさせる。	怠惰等による無断欠席は1回でも厳しく指導し、怠惰等による遅刻は、5回、10回を基準に厳しく訓戒する。 欠席や遅刻に何らかの精神的事情がある場合は、学校カウンセラーと連携する。 5分前行動やスマートフォンの利用マナーを徹底させる。	C	B	SNSを利用できる現代ならではの問題事象が起こっており、利用マナーの育成が課題である。 体育館等の集会施設がないため学年集会ができないことをフォローする意味でも、機会ある毎に個人面談を実施した。	SNSの危険性を理解させるような講演会やLHRをおこなう。 講演会や集会ができる体育館等の集会施設の早急の設置が必要である。	今後はさらにＳＮＳの利用マナーについて徹底することが必要となる。機会あるごとに生徒各自の意識を高める指導をお願いしたい。 様々な面で悩みを抱える生徒に対しては、教員間の情報の共有を図ると同時に、きめ細かい対応による成果が見られるので、ＳＣやＳＷとの連携を一層強化した支援体制を継続していくことを期待する。
	将来の目標を具体的に設定させ、持てる能力を発揮できる進路選択をさせる。	機会があるごとに個人面談を行い、適切な進路選択ができるよう指導する。 キャリア部と連携をとり、適切な時期に効果的なホームルーム行事を計画・実行する。	B				
	情報を共有し、学年運営を円滑にする。	学年会議で生徒の情報を共有し、必要があれば教科分掌、委員会とも連携する。	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第３学年	最終学年として、充実した高校生活を送らせる。	基本的生活習慣を確立させ、理由のない遅刻・欠席をなくす。 学校行事に積極的に取り組ませる。部活動についても、悔いの残らないよう最後までやり遂げさせる。	B	B	ほとんどの生徒は基本的生活習慣が確立できているが、一部、遅刻の常態化、欠席の増加がみられた。また、受験期を迎え、熱心に勉学に取り組む一方で、不安感や焦燥感が増し、不安定な状態になる生徒もいた。学年集会ができない中、共通理解を得るため、ＨＲ間、教師間や保護者との連携を図り、善処したケースもあったが、難しいケースもあった。	学年集会を開き、学年全体が顔を合わせ、まとまることは大切である。1学年全体が集まることのできる施設は必要である。 メンタル面の弱い生徒が増える中、教師間、スクールカウンセラーとの連携をより一層密にし、保護者との連絡もしっかりとることが必要である。	メンタル面でデリケートな生徒が増えているように思われる。その中で学習指導と共にＳＣとの連携を図ることで、困難な時期を乗り越えて、進路の実現を目指したことは大きく評価できる。日頃の授業での学習活動における具体的な中身の提示などで学習における基礎・基本の徹底をお願いしたい。３年間の学習や活動の成果が、達成されることを期待する。
	進路実現に向けて、主体的に取り組ませる。	各自の進路実現に向けての意識をしっかりと持たせる。予習・復習を通して基礎・基本の習得を徹底させ、応用力の礎を築かせる。また、模試を十分に活用させ、意欲を持って学習に取り組ませ、実力の伸長を図らせる。	A				
	教師間や保護者との連携を図り、生徒への適切な対応を行う。	日々の生徒の様子について把握し、必要に応じて保護者と情報を共有する。 生徒の変化に気づいた場合は、早期に教師間で連携を図り、対処する。また、保護者との連絡を密に取りながら、適切に対応する。	B				